

## カメラマンの目線から

山里 将之

みなさん、こんにちは！  
貝塚聖書教会の山里将之です。

私たちの教会が所属している福音交友会は、1947年の設立。2022年には75周年を迎え、その記念集会在、一年遅れで今年の10月に持たれました。そんな中、私に与えられた役割は、こういう時に良く担当させて頂いているカメラマン。ビデオカメラで集会の様子を撮影しながら、後ろ手から皆さんの様子を眺める立ち位置に良く身を置いています。

ところで、カメラマンの宿命のようなものの一つに、被写体にはならない、というのがあります。最近のリモコン式で、カメラマン自身も被写体になる技術が普通になって来ましたが、それでもやっぱり、ファインダーをのぞく方が多く、集合写真などでは、丸枠とか四角枠とか、別枠におさまる事が良くあるかと思えますね。撮っている側は映らない。ちょっと寂しいのは確かですが、でも考えて見れば、姿は映っていません。カメラマンは確かにそこにいます。写真や動画のその映像、その画角、その光景は、まさしくカメラマンの目線。カメラマンは、姿としては、画像や動画には登場しませんが、その「絵」は、まさしくカメラマンの目線。カメラマンは、その「絵」を見ている者として、確かにそこにいます。



ふと、神様もそうだな、と思いました。神様は、私たちには見えません。夢や幻で見たという方もおられますが、そうそう多くはないですよ。私たちはつい、見えないものは、無いものと考えてしまいがち。でも、今日も私がここにいる、今日も朝日が昇り、今日も鳥たちが夜明けを告げます。貝塚からは葛城山が、阪南では清々しい水平線が、この大自然の美しさを通して、これらを創造された方の偉大なみわざを告げています。そんな神様の目線、愛に満ちた目線を、今日も感じ取りながら、幸いにお過ごしください…

天は神の栄光を語り告げ 大空は御手のわざを告げ知らせる。  
昼は昼へ話を伝え 夜は夜へ知識を示す。  
話しもせず 語りもせず その声も聞こえない。  
しかし その光芒は全地に そのことばは世界の果てまで届いた。  
神は天に 太陽のために幕屋を設けられた。

聖書 詩篇 19篇 1-4節

聖書 新改訳 2017©2017 新日本聖書刊行会